

# 武蔵野教育研究

第2巻第4号

2009年1月20日

武蔵野教育研究会

## 目 次

佐々木 隆	小学校英語と児童英検について	1
成瀬 雄一	発達に障害のある子どもの理解と支援（学習障害・注意欠陥多動性障害など）	14

## 小学校英語と児童英検について

佐々木 隆

### プロローグ

2008年3月28日に新学習指導要領が告示され、小学校の教育課程に外国語活動が正式に位置付けされた。これにより、これまで総合的学習の時間の中で、国際化、国際交流の名のもとで実施されてきた外国語活動はいよいよ本格化することとなる。さらに新学習指導要領の「第4章 外国語活動」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」に「(1) 外国語活動においては、英語を扱うことを原則とする」<sup>(1)</sup>が明記されている。かつて日本の復興期に実施が決まった東京オリンピック大会(1964)の時期にも、国際化が叫ばれ英語ブームが起こった。その際に登場したのが英検(実用英語技能検定試験)である。現在でも資格ブームは続き、過去3年間の志願者の推移は以下の通りである。<sup>(2)</sup>

年度	1級	準1級	2級	準2級
2005	22,033	68,614	316,323	514,158
2006	24,076	71,211	318,099	509,872
2007	24,967	69,469	511,742	681,785

年度	3級	4級	5級
2005	714,901	524,358	329,027
2006	698,490	505,108	322,073
2007	681,785	483,247	315,151

現在は外国語活動という名目で導入されるが、やがて教科化されること

は暗黙の了解といってもよいだろう。ここで、小学校英語と児童英検の関連性について考察し、その功罪についても検討を加えたい。

## 1 児童英検とは

いわゆる小学校英語の導入は、英語教育に拍車をかけることになり、資格や検定試験ブームにつながることは容易に想像がつく。中学や高校で英検を積極的に取り入れ、全員に受験させるといった事例は珍しくない。では小学校ではどうだろうか。すでにこうした動きが見られるのだ。本務校が位置する埼玉県狭山市の小学校においても全員が児童英検受験といったことが新聞でも掲載された。

児童英検をインターネット検索すると、Googleでは約248,000件(2008年11月9日現在)、Yahoo Japanでは約270,000件(2008年11月9日現在)がヒットする。児童英検とは一般的に児童の英語能力検定試験ということになる。英語検定試験データベースによると9つの検定試験を取り上げているので紹介しておきたい。<sup>(3)</sup>

1. 児童英検
2. 国連英検ジュニアテスト
3. ケンブリッジ英検ヤングラーナーズテスト
4. JAPEC児童英検
5. JAPEC子どもe検定
6. 基礎英語検定
7. ヤマハ英語グレード
8. ACET
9. TECS

もちろん、これ以外にも独自のものもあるであろうが、最も馴染みがあるという点で9つの検定試験についてさらに述べていきたい。

## 1. 児童英検 (STEP)

児童英検は日本英語検定協会 (STEP) が主催するもので、合否判定がないのが大きな特徴で、3つのグレードに分かれている。「BRONZE」(初級レベル)、「SILVER」(中級レベル)、「GOLD」(上級レベル)となっているが、受験生全員に英文の「CERTIFICATE」(成績証明書)を発行する。「児童英検Q&A」には次のようにある。

子どもたちが気軽に受験することができ、習い始めの時期に大切な動機づけとなります。それによって、その後の学習意欲を高めることができます。<sup>(4)</sup>

試験内容は、リスニング形式となっている。英検で最も初歩的である5級は中学初級程度でリスニング50%、筆記試験50%で文法、読解、作文等の分野が入ってくることと大きく異なる。

児童英検の受験状況は2005年度は80,188名、2006年度は87,525名、2007年度は93,069名と年々増加している。<sup>(5)</sup>

年度	BRONZE	SILVER	GOLD	合計
2005	37,780	28,535	13,873	80,188
2006	40,132	30,053	17,340	87,525
2007	41,591	32,655	18,823	93,069

この児童英検の受験者数と前述の英検の3級～5級の受験者数を比較すると児童英検の受験者数が伸びていることが大きな特徴となっている。この背景には小学校英語という考え方と児童英検が合否を判定しない検定というこの2点が大きな要因となっていることが考えられる。

## 2. 国連英検ジュニアテスト

国連英検ジュニアテストは国連英検試験センターが主催しており、リスニング中心のテストで、合否の判定はなく、6コースのそれぞれの点数に応じて1～3級の3段階で評価される。<sup>(6)</sup>

## 3 ケンブリッジ英検ヤングラーナーズテスト

ケンブリッジ英検ヤングラーナーズテストはUCLESによって1997年、英語を母国語としない子どもを対象に開発された国際児童用英語検定試験である。4つのスキル（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を世界基準で判断できるものである。試験のレベルはStarters, Movers, Flyersがあるが、合否判定はない。<sup>(7)</sup>

## 4. JAPEC児童英検

JAPEC児童英検は全国統一児童英語技能検定試験とも言われ、日本児童英語振興協会が主催している。1～6級まであり、リスニングテストとスピーキングテストが実施され、合否が判定される。<sup>(8)</sup>

日本児童英語振興協会は1978年に設立。同協会のホームページによれば、JAPEC児童英検については以下の通りである。

「全国統一児童英語技能検定試験」（JAPEC児童英検）は、科学的に設定されたグレード別の到達目標によって、子供たちにと

っては英語学習への楽しい動機づけで学習の目標を与え、一方、先生方にとりましては英語指導の心強い指針となるものです。この「JAPEC児童英検」は、楽しい英語の力だめしとして、すでに31回の実績の中で76万人以上の子供たちが参加しており、日本で最も長い伝統を持つユニークな試験制度として、高い社会的評価を受けてきております。<sup>(9)</sup>

## 5. JAPECこどもe-検定

JAPECこどもe-検定は日本児童英語振興協会が主催している。同協会のホームページによれば、次のような説明がある。

また昨今の情報通信技術の発展と普及を踏まえて開始した「JAPECこどもe-検定」は、日本で初回のインターネットで受験できる児童英検として認知されております。世界各国の教育機関との提携による海外留学などのプログラムは、国際社会でのコミュニケーションの方法を外国の人々との中で実際に体験して身につけるもので、協会本来の趣旨に沿う大切な事業として、これからもより積極的に取り組んでいきたいと思っております。<sup>(10)</sup>

JAPECこどもe-検定はJAPEC児童英検のインターネット版とも言える。

## 6. 基礎英語検定

基礎英語検定は日本基礎英語検定協会が主催し、1級から10級の段階がある検定試験である。試験レベルは以下の通りである。

1級～10級まであり、幼児（年長児）の方は10級から、小学生以上

は9級または8級からスタート。1級は中学3年生修了程度。<sup>(11)</sup>

合否判定が行われる。10級のレベルは以下の通りである。

10級 ネイティブスピーカーが魔法使い、ピエロ、お姫様などに扮して、様々な楽しいクイズを出題。<sup>(12)</sup>

この検定試験では幼児も受験者として想定したレベルを設定していることが大きな特徴である。

#### 7. ヤマハ英語グレード

ヤマハ英語グレードはヤマハ株式会社普及企画部英語教室指導：開発室が主催している。おもな試験内容は以下の通りである。

ボキャブラリー・リスニング・ファンクション・グラマー・リーディングの5項目を評価するテスト。リスニング問題およびリーディング問題で構成され、試験問題はテストA・Bともに約60分。<sup>(13)</sup>

受験生全員が級に認定される。不合格という考え方はない。

#### 8. ACET

ACET(Association of Children's English Testing)は全国児童英語検定協会が主催している。ACETのホームページには次のようにある。

皆様ご承知のとおり、2002年からの「総合的な学習の時間」では、多くの公立小学校でも、小学校3年生から英会話がスタートするこ



とが見込まれています。その方法としては、まず「英語に慣れ親しむ」ことを主眼とし、歌・ゲーム・ダンスを取り入れた動きのある楽しい授業、そして「まずたくさんの英語を耳から聞いて、口から出してみる」ことが、何よりも大切です。昭和59年にスタートしたACETテストは、英語を習い始めて6ヶ月以上を経過した子供たちを対象として、日頃の学習の成果を客観的に評価し、さらに学習効果を高めていこうとするもので、児童英語の現場に即したリスニングとスピーキング中心のテストは、関係各方面より高い評価をいただいております。<sup>(14)</sup>

1級から7級まであり、合否判定がなされる。

## 9. TECS

TECS (Test of English Communication Skills of Preteens) 「英語コミュニケーション技能検定試験」はLECS (Laboratory of English Communication Skills 英語コミュニケーション能力研究所) が主催している。<sup>(15)</sup> 主催はLECS (英語コミュニケーション能力研究所) である。合否判定は行われる。2002年から実施された検定試験である。

## 2 児童英検とその評価

児童英検にも合否を判定しないタイプの検定試験と合否判定をするタイプのものがある。そして、新学習指導要領で示された外国語活動は、教育課程に入っているものの、教科としての位置付けはなされていない。しかし、年間35時間という時間でどのような活動をするのかを考えると、そこには一種の教科書のようなものが必要となろう。それを資料と呼ぶ

のか、あるいはハンドブックと呼ぶのかは別にしても、なんらかの教材が必要であることは誰もが認めるところであろう。小学校英語の最も課せられたものは、英語に慣れ親しませるということだろう。これは外国語活動の狙いにも示されている。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。<sup>(16)</sup>

外国語活動が教科ではないため、評価の対象となっていないが、現在ではすでに小学校に英語を導入し、教科の扱いを行っているところもある。文部科学省のホームページには「小学校英語活動実施状況調査結果概要（平成19年度）」が掲載されており、それによると21,864校のうち、英語活動を実施下の学校数は21,220校で全体の97.1%となる。この調査は全国の公立小学校を対象としたものである。児童等に外国語活動の評価をどのように開示するのか、あるいは開示しないのかにかかわらず、学習と教育課程の実施には評価が必ず伴うものであろう。2000年12月4月の（教育課程審議会答申）「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」によれば、観点別学習状況の評価を基本とすることになる。さらに、目標に準拠した評価及び個人内評価の重視、指導と評価の一体化などが示されており、外国語活動がどう扱っていくのかも大きな課題である。いわゆる児童英検で合否判定が行われるものと、どうでないものがあることは紹介してきたが、いわゆる「やる気」を重視するのか、「興味を起こさせること」を重視するのか、「達成感」を重視するのかといったことにも繋がるだけに、導入に当たっては慎重な

選択が必要である。教育課程では「教科」と「評価」は対になるものであるが、そこには到達目標があり、そこをどこにおくかが大きな鍵となる。

### 3 事例紹介 狭山市の場合

児童英検を取り入れている小学校の全国データを分析することは今後の課題とするとして、本務校が位置する埼玉県狭山市の状況を見ておきたい。狭山市は外国語早期教育推進特区となっている。狭山市教育センターのホームページには以下のようにある。

狭山市は平成 15 年度 5 月に特区として「構造改革特別区域研究開発学校」の認可を受け、教育課程の弾力化によって、市内小学校の教育課程に「英語活動」を教科として編成しています。

児童期という早期から英語に触れることによって、外国語やその背景にある異文化を理解し、自国や郷土の文化を発信できる人材を育て、国際感覚の涵養を目指しています。<sup>(17)</sup>

さらに「小学校英語活動」には次のように掲載している。

小学校英語活動とは

言語や異文化を自然に受け入れられる児童期に、子どもが「言いたいこと」「したいこと」を題材に、音声を中心とした活動を通して、英語に触れ、英語に慣れ親しませるコミュニケーション活動です。

狭山市では、教育課程に教科として英語活動を編成しています。

1、2年生は年間10時間、3～6年生は年間35時間（週1時間）の英語活動に取り組んでいます。カリキュラムは、「狭山市小学校英語活動指導資料」を基準としています。

また、狭山市では担任と英語活動支援員（英語が堪能な地域人材）によるティームティーチングで、創意工夫のある授業を展開している。

### 英語活動のねらい

ねらいは、英語によるコミュニケーションへの興味関心を高め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することです。また、その結果としてコミュニケーション能力の基礎が身につくことです。簡単に言うと「定着よりも慣れ親しむ」が大きな目標です。

狭山市では、**Together**（共に生きる）、**Energy**（やる気）、**Peace**（ふれあい）の3つを市の目標とし、子どもが言葉を通じて、意欲を持ちながら、人とふれあい、共生する力を身に付けられることを願っています。<sup>(18)</sup>

狭山市では市内にある17の小学校で児童英検（ブロンズ）が2008年7月2日に実施された。<sup>(19)</sup>

### エピローグ

小学校への英語導入は、総合的学習の時間、外国語活動を通して、小学校英語の教科化は時代の流れから見ても、実施時期がいつになるかは別にして、誰が見てもはっきりしている。今回の学習指導要領の

改訂により小学校に外国語活動（英語活動）が教育課程に導入されたのはその一段階に過ぎない。もちろん、地方公共団体によっては小学校の教育課程の中で教科として取り入れているところもあるのも事実である。

しかし、最も懸念されることは現場の教員が取り残されることだ。教員の多忙化は減ることはなく、新しいことが導入されれば、それが山積みなる仕組みになっている。おそらく、学習指導要領の改訂に伴う対応について山のような各方面からのアンケート・報告が寄せられるに違いない。個人としての回答でないだけに、これも慎重を期さねばならない。そして、やがて来るであろう教科化に対応する「評価」と「教科書」の問題。小学校英語の導入の行方は前途多難である。現在の小学校教諭の教職課程では外国語活動に対応する「教職に関する科目」は配置されていない。こうしたことも教員免許更新制度と無縁ではない奥深いものがあるのではなかろうか。（武蔵野学院大学大学院・武蔵野学院大学教授）

## 注

(1) 『小学校学習指導要領』（文部科学省、2008年3月）、p. 95.

(2) 「英検 過去3年間の年度別受験状況」

(<http://www.eiken.or.jp/situation/last3year.html> 2008年11月9日)

(3) 「英語検定試験データベース」

(<http://www.eigotown.com/eigocollege/exam/exam.shtml>  
2008年11月2日)

(4) 「児童英検Q&A」([http://www.eiken.or.jp/jr\\_step/ga.html](http://www.eiken.or.jp/jr_step/ga.html)  
2008年11月2日)

(5) 「児童英検受験状況」

- ([http://www.eiken.or.jp/jr\\_step/jyuken\\_joukyou.html](http://www.eiken.or.jp/jr_step/jyuken_joukyou.html)  
2008年11月2日)
- (6) 「国連英検ジュニアテスト」  
([http://www.eigotown.com/eigocollege/exam/exam7\\_9.shtml](http://www.eigotown.com/eigocollege/exam/exam7_9.shtml)  
2008年11月2日)
- (7) 「ケンブリッジ英検ヤングラーナーズテスト」  
([http://www.eigotown.com/eigocollege/exam/exam7\\_4.shtml](http://www.eigotown.com/eigocollege/exam/exam7_4.shtml)  
2008年11月8日)
- (8) 「全国統一児童英語技能検定試験」  
([http://www.eigotown.com/eigocollege/exam/exam7\\_3.shtml](http://www.eigotown.com/eigocollege/exam/exam7_3.shtml)  
2008年11月2日)
- (9) 「日本児童英語振興協会」  
(<http://www.japrec.jp/hp/japrec/japrec.htm> 2008年11月2日)
- (10) Ditto.
- (11) 「基礎英語検定」  
([http://www.eigotown.com/eigocollege/exam/exam7\\_6.shtml](http://www.eigotown.com/eigocollege/exam/exam7_6.shtml)  
2008年11月12日)
- (12) Ditto.
- (13) ヤマハ英語グレード  
([http://www.eigotown.com/eigocollege/exam/exam7\\_8.shtml](http://www.eigotown.com/eigocollege/exam/exam7_8.shtml)  
2008年11月12日)
- (14) ACET」(<http://www.acet-test.com/main.html> 2008年11月2日)
- (15) 「TECS」  
(<http://www.lecs.jp/katsudou/index.html> 2008年11月2日)
- (16) 『小学校学習指導要領』(文部科学省、2008年3月)、p.95.

(17) 「狭山市教育センター」

(<http://www.sayama-stm.ed.jp/center/index/eigo/soukitokku/soukitokku.htm> 2008年11月10日)

(18) 「狭山市教育センター」

(<http://www.sayama-stm.ed.jp/center/index/syougakakueigo/syougakueigo2.htm> 2008年11月10日)

(19) 「狭山市教育センター」

(<http://www.sayama-stm.ed.jp/center/index/eiken/h20-jidou/eiken.html> 2008年11月10日)

キーワード：小学校英語、児童英検、評価

## 発達に障害のある子どもの理解と支援

(学習障害・注意欠陥多動性障害など)

成瀬 雄一

本稿では、平成 20 年度に開催されたシニア・コミュニティ・カレッジ子育て支援学科における発達に障害のある子どもの理解と支援を学ぶことも目的に全 1 回（1 回 90 分）という講座形式という方法で、実施された。講義は、前半を講義に、後半を質疑にあてた。講座は、対象者は、概ね 55 歳以上であり、発達障害に高い動機づけをもつ者であった。講座は、可能な限り専門用語を使用せず、ロール・プレイや質疑を多く取り入れる形とした。その結果、質疑が多くみられた。

### I. 講義

昔は、障害といえば身体障害、知的障害と考えられ、述べられてきた。しかしながら、現在は、身体と同じように脳にもいろいろな機能があり、脳の中の心（行動）の機能がうまく働かない人たちがいると考えられている。このような機能がうまく働かないことによる発達の難しさを発達障害ということがある。発達障害のジャンルとしては、おくれ、かたより、ゆがみとしてとらえることができる（黒澤，2007）。おくれとは、同じ年齢の子どものが大多数ができることができないものであり、すなわち知的障害と言い換えることができる。かたよりとは、ほかの子どもにも見られる行動だが、その程度が通常範囲を超えているものであり、学習障害（LD）や注意欠陥多動性障害（AD/HD）と言い換えることができる。ゆがみとは、ほかの子どもには見られない行動が見られるものであり、自閉症・アスペルガー障害と言い換えることができる。



現在、発達障害の子どもは少なくないとされており、埼玉県での調査研究では、10.5%程度、存在していると考えられている。もちろん、LDとAD/HD、自閉症・アスペルガー障害が重複している可能性がある。ただし、診断名の重複はない。したがって、図1のように重なり合って、障害は存在していると考えられている。

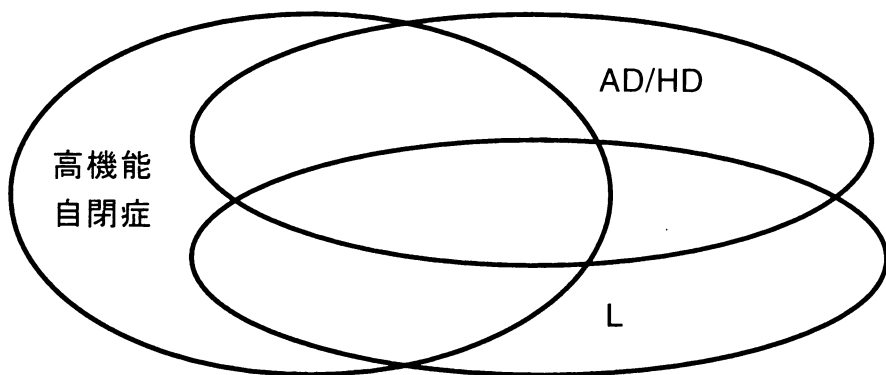


図1．発達障害の分類と重複

### 1. かたよりとしての発達障害 (AD/HD)

AD/HDとは、①知的障害ではない (IQが70以上)、②AD/HDの3つのタイプ (多動衝動優位型 不注意優勢型 混合型) があり、③7歳以前から2箇所以上で6ヶ月以上で症状が見られる。本人の責任や家庭的な問題ではなく、脳のある部分に何らかの脳 (中枢神経) 機能の障害があると推定されている。また、これらの症状は、視覚、聴覚、情緒、身体などの障害が原因で生じているのではない。AD/HDの「/」にみられるように、AD (注意欠陥) とHD (多動性) のどちらか及び両方を抱えていることがあり、動き回ること、すなわちAD/HDでないと考えられている。

### 2. かたよりとしての発達障害 (LD)

LDとは、①知的障害ではない（IQが70以上）、②聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力の中で、一つ又は複数に著しい学習上の困難があると考えられている。本人の責任や家庭的な問題ではなく、脳のある部分に何らかの脳（中枢神経）機能の障害があると推定されている。また、学習上の困難さは、視覚、聴覚、情緒、身体などの障害が原因で生じているのではない。LDは、教育上ではLearning Disabilitiesの略語、医学上ではLearning Disordersの略語とされ、意味合いが異なる。教育上では、3学年以上の学業能力が下回ることを広義ではさし、医学上では認知・脳科学的に見て能力に偏りのあるものと限定されている。

### 3. ゆがみとしての発達障害（自閉症・アスペルガー障害）

自閉症やアスペルガー障害は、①障害知的障害ではない（IQが70以上）、②社会性の障害、コミュニケーションの障害、こだわり（想像性）の障害があり、③3歳以前から症状が見られる。本人の責任や家庭的な問題ではなく、脳のある部分に何らかの脳（中枢神経）機能の障害があると推定されている。また、これらの症状は、視覚、聴覚、情緒、身体などの障害が原因で生じているのではない。

### 4. 発達に障害のある子どもたちへの支援

幼児期での支援の1つとして、見守りと支えが考えられる。子どもたちのがんばりを大いに認め、叱る前に大人が「なぜ」「どうして」を考える努力をすること、叱るよりも、「こうしてみたらどうだろう」と大人が子に教える態度を持つことが肝要だろう。また、しつけ不足、愛情不足と親を責め立てることは、子どもへの悪い影響となる可能性があるだろう。

小学生への支援の1つとして、認めと配慮が考えられる。すなわち、「できないところをうまく手伝う」ことで自信をつけることである。ただ、過度に頑張らせたり、期待が大きすぎると、自信を喪失

し、やる気を失い、動機づけが下がってしまう場合が必要なので、配慮が必要になるかもしれない。

中学生への支援の1つとして、プライバシーを守るということが焦点になると考えられる。どうしても、障害を抱える子供に対して、親や周囲は過度の干渉をしがちである。過度の干渉はやめて、子どものプライバシーを守る態度を親が持つことが必要になる。必要な時には周囲の専門機関に相談をしてみることも良い案かもしれない。

## II. 質疑

I. で述べられた講義を聴き、受講者が筆者に質問したものをいくつか掲載する。まず、発達障害、特に自閉的なものを抱える児童らの特徴的な発言や勘違いを、なぜ障害ととらえるのか。それらは、特筆すべき特徴であり、「面白いよね」と言ってあげられれば良いのではないかという質問があった。この意見には、筆者にも賛同できる。できることならば、そういう環境を整えてあげることができればよいと思う。しかしながら、現状では、すべて、そのような環境ではなく、そのような環境を整えるためにも障害という考え方は有効になるだろう。

つぎに、実際に自閉症児と接点を持っている方からの質問で、具体的な対応方法に関して質問があった。これに対し、筆者は、すべての自閉症に対して有効な方法は分からないが、講義で伝えた内容を知っていること自体が自閉症児に対しての対応を変更することになるだろうと伝えた。

さいごに、発達障害と最近の事件およびニュースについての質問であり、関連性が高いのかどうかということであった。これについて、筆者はその見解を否定した。現在までに、この関連性について明確な答えがある研究はなされていないからである。また、相談員

としての経験で、そのような考えが保護者を非常に追い詰めてしまうことがあることもあり、筆者の願いとして、発達障害と事件、ニュースを関連透けないでほしいと切に願っている。

## 文献

黒澤礼子 発達障害に気づいて・育てる完全ガイド 講談社 2007

キーワード：発達障害 学習障害 注意欠陥多動性障害 自閉症

執筆者一覧

佐々木 隆 武蔵野学院大学大学院教授・武蔵野学院大学教授  
成瀬 雄一 狭山市立教育センター相談員

武蔵野教育研究会 第2巻第4号

2009年1月20日 発行

武蔵野教育研究会 編集・発行

〒350-1328

埼玉県狭山市広瀬台3丁目26番1号

武蔵野教育研究会事務局

武蔵野学院大学 佐々木隆研究室